

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名 放課後等デイサービスウラウラ稲生 保護者等数(児童数) 23 回収数 21 割合 91 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	90%	0%	0%	10%		活動の内容によって、食堂その他の部屋を使用しています
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	80%	10%	0%	10%		適切です。専門職による活動や音楽療法等の講師の活動も実施しています。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	66%	10%	0%	24%		一部されていない箇所もあり、可能な限り改善できるよう努めます。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	90%	0%	5%	5%	誰にでも当てはまる内容だったため、再度作成して貰えた。	保護者様と一緒にお子様の特性や強み、保護者様の意向などを確認しながら作成していきます。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	95%	0%	0%	5%	音楽療法や専門職活動以外、どういことをしているか、具体的にわからない。	専門職活動や季節行事、外出行事など様々な活動を取り入れています。新聞やSNS等に上げています
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	29%	14%	19%	38%		今のところ、機会は少ないですが、イベントやリモートなども検討していきます。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	95%	5%	0%	0%		紙面やSNS等、口頭でも説明を行っています。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解ができていますか	81%	19%	0%	0%		送迎時やお迎えの際、またライン等でお伝えするようにしています。今後もできる限り理解してもらえよう努めます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	76%	19%	5%	0%	毎回時間がないためあまり助言はない。学童の方がいつも詳しくゆっくり説明してもらえる。	できる限り話し合いの機会を作れるよう努めます。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	71%	14%	5%	10%		保護者交流会などを定期的に開催しております。今後も予定しております。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	71%	10%	0%	19%		苦情等が発生した場合に即座に対応できるよう、普段より職員間、施設間でも情報共有を行い、苦情マニュアルの整備なども進めていきます。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	95%	5%	0%	0%		新聞やSNSツールで情報発信したり、送迎時にお伝えするようにしています。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	95%	5%	0%	0%		機関紙や新聞などを定期的に発行し、自己評価表は法人のHPで公表し、皆様に見てもらえるようにしています。
14 個人情報に十分注意しているか	95%	5%	0%	0%		写真の掲載に関しては、保護者様のご了承のもと、実施しています。情報漏洩等ないよう、細心の注意を払うよう努めます。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	90%	0%	5%	5%	感染対策が徹底されていてよいが、そのことが逆に外部の方との情報提供の機会を減らしてしまうのなら、もう少し緩くていいかと思う。	現状に沿ったマニュアルを作成し、保護者様に見ていただき、ご説明できるよう努めます。また、感染対策を行いつながら外出の機会も増やしていきたいと思っています。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	71%	5%	0%	24%		年間計画で5回の防災訓練を実施しており、SNSや新聞等でもお伝えしております。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	85%	10%	5%	0%		児童の皆様楽しく通っていただけ、様々な企画を考えていきます。
	18 事業所の支援に満足しているか	85%	10%	5%	0%		安心してご利用いただけるよう、事業所全体で支援内容の充実に努めます。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名

放課後等デイサービスURAURA稲生

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	食堂・学習室等も状況に応じて活動スペースとして使用している。	利用される方が快適に過ごせるよう、設置物の配置や活動スペースの確保などに努める。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	URAURA八野とも連携を図り、送迎の応援依頼等行っている。	職員が休んだ場合でもバックアップ体制が取れるよう、事業所内でも調整を図っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	100%	日頃より、段差や転倒箇所はないか確認している	玄関等、一部バリアフリーでないところがあるので、必要に応じ変更していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	日々、職員間で支援向上のために問題提起を行い、改善している。	ミーティングや職員会議、ISOの取り組みなど全職員で業務改善に取り組んでいく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	日々の利用の中でも意向を聞き取るようにしている。	保護者様から頂いたアンケートを元に支援向上、業務改善に取り組んでいる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	HPで公表している。	伊勢亀鈴会のHPで公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	評価結果は改善に繋がっている	評価結果を反映させ、改善に繋がっていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75%	25%	研修等を受けたものから他の職員に水平展開している。	感染症対策などの定期的なもの、外部及び内部研修を必要に応じ実施していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	計画相談などからも情報収集を図っている。	児童・保護者様のニーズを聞き取り、支援計画に反映させていく。コロナ等で面談できないときは電話などでアセスメントを行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	担当を中心に検討を行っている。	必要に応じ、アセスメントシートを見直していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	常に情報収集するよう心掛けている。	施設内や法人内でも新しい案はないか情報収集に努め、児童・保護者にも聞き取りしていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	季節行事・利用者ニーズなど反映している。	児童・保護者様の要望等を確認しながら、また児童の特性などを考えながら対応していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	個々のニーズを確認し支援している	学校や保護者からの状況なども確認しながら支援内容を検討していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	向き不向きや特性などをみながら活動を組み立てている。	1か月ごとの活動計画は立てているが、保護者様から体調等も確認し、状況に応じて活動を変更できるようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼に加え、疑問に感じた時点ですぐに確認するようにしている。	変更があった際、すぐに伝達できるよう、職員間で意識を高めている。伝達漏れのないよう、今後も注意を払っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	休みの職員へも必ず伝えるよう徹底している。	緊急時等、SNSやメールなども使用しながら、伝達漏れのないよう、徹底していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	写真や動画記録なども適宜使用している。	外出行事等、記録が難しい場合もあるが、できる限り漏れのないよう、注意を払っていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	中間評価、必要に応じた評価を実施している。	定期的にモニタリングを実施している	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	児童の状況に応じた支援を行っている。	全職員でガイドラインの総則の理解に努めていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	状況に応じて、リモートも活用している。	児童発達支援管理責任者や状況を把握しているものが会議に出席するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校の下校時間などは保護者様より教えてもらっている。	学校から年間行事や時間の変更など適宜連絡してもらうように努めている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	八野生活介護センターの看護師と相談体制をとることができる。	今のところは対象の児童はみえないが、今後受け入れも鑑みて、八野生活介護センターの看護師等とも、対策を講じておく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	25%	保護者様より聞き取りを行っている。また、支援事業所様より文書でいただくようにしている	ご家族や相談支援事業所から情報を頂くことが多く、今後も情報交換や情報共有に努めていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	移行先の事業所等にも情報を伝えている。	必要に応じて、個人情報には十分留意しながら、情報の提供を行うようにしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%	必要に応じて研修等受講し、機関からも助言等もらうようにしている。	担当者だけでなく、全職員が発達障害に対しての理解を深められるよう研修計画を立てていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	25%	75%	機会があればリモート等も検討していきたい。	今のところ児童クラブ等との交流はないが、外出活動にて地域の方との関わりはある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	事業所間で水平展開を行っている。	現在のところ、参加できていないが、利用者支援等情報収集の為、機会があれば参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	SNS等を積極的に活用している。	児童の状況や課題について、他の職員にも伝達し、施設全体で問題解決に取り組めるよう努めていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	75%	25%		ペアレントトレーニングの研修実施を検討していく。必要な保護者に実施できるようにしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	25%	左記の内容については、職員間で情報収集に努めている。	変更があった際、特に既存で利用して貰っている方に対して漏れのないよう伝えていく必要がある。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎時やSNS等、ご家族の状況に応じて対応している。	相談を受けた際は適切に応じている。事業所で返答が難しい時は法人や他の機関に相談等するようにしている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	50%	定期的に保護者交流の場を設けるように企画をしている。	今後、さらに保護者通しが悩みや相談ができるよう、交流会などを検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	施設や法人の事例などを全職員に展開できるようにしている。	苦情等に対し、事業所への報告、職員への周知、早期対策と解決をできるよう、マニュアルの作成と対応把握に努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	SNS等活用している。	毎月、新聞を発行し、活動の様子や施設の動きなどを伝えるようにし、全利用者様へお伝えできるように今後も努める。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	職員間でも肖像権一覧等を把握するよう周知している。	施設内だけでなく、車両も含めて情報漏洩に注意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	送迎時、電話、SNSなど様々なツールを活用している。	お仕事や家の状況などに応じてコミュニケーション方法を使い分けていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%		法人としては祭りやグランドゴルフ大会などを開催して、地域交流を図っており、次年度以降も実施していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	75%	25%		マニュアル等の見直しを行い、マニュアル研修や関係者へ周知できるよう進めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	毎年、防災訓練で様々な事象を想定して取り組んでいる。	事業所全体でも災害時等の話し合いは実施している。今後も様々な事象を想定し、児童にも体験の機会を作ったり伝達を行っていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	外部の情報なども積極的に取り入れている。	定期的な研修を実施している。また、外部での発生事例なども自ら情報収集し、検討会などを行う必要がある。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	身体拘束の研修等を会議等でも実施している。	契約時に説明できるように努めていく。また、書面への記載も検討していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%	新規契約の際や、アセスメント等で確認するようにしている。	現在、アレルギー対応の利用者様はいないが、いつでも対応できるよう準備しておく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ミーティング、会議等で情報共有を図っていく。	事業所内で起こった事例を法人内でも問題提起している。水平展開を行っていく。